

和光市協働事業実績報告書【平成 28 年度実施事業】

事業名 和光市自然環境マップの作成
 日 時 平成29年6月20日（火）10:00～11:00
 場 所 和光市役所6階市民交流スペース
 出席者 事業実施団体：高橋勝、渡辺（NPO 法人 和光・緑と湧き水の会）
 担当課：工藤、金岡（環境課）
 中川、新坂（市民活動推進課）

1. 事業概要

事業名	和光市自然環境マップの作成
-----	---------------

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO 法人 和光・緑と湧き水の会	環境課

事業費	予算額	決算額
	300,000 円	300,389 円

事業内容 （実績）	都市化が進む和光市には、白子川などの小河川沿いに緑地が残存するとともに、武蔵野台地末端部の特徴的な湧き水が多く在る。このような自然環境を把握し、その存在や、大切さを市民に伝え、次世代に残すことが必須である。 本マップは、上記の視点に沿って、市内の主要な緑地や湧き水を地図上に示し、それらの特徴や、自然環境としての重要性を解説し、身近な自然の大切さや利用方法についての理解増進に役立つ内容を盛り込んだ。 市内の主要な緑地や湧き水については、2014年度の市と当会の協働事業「和光市湧水環境調査」をもとに、当会が参加した1999～2001年度の「和光市白子地区湧水自然環境調査」及び「和光市湧水自然環境現況調査」の結果を踏まえ、また、新たに現地調査を加え、それらの結果を、A2版表裏のマップとしてまとめ、出版した。 2016年9月末の時点で、マップの内容の全体像を決定し、環境課と当会の協力により、内容の向上を図り、事業を進めた。 マップは、表面に、34ヶ所の緑地・湧水地の所在を示す地図を置
--------------	---

	き、そのうちの 15 ヶ所については、写真と特徴を示す解説を載せた。裏面は、8 分割した構成とし、和光の四季、地形と地質・湧き水の仕組み、身近な自然保護、白子川と越戸川、貴重な野草、和光のカタクリ、和光の小さな生き物たち、和光市の樹木と緑地の各項目について記述し、特徴的な和光市の自然環境についての理解増進に役立つ内容となるよう企画・作製した。 多くの市民の身近な自然の散策、また、小中学校での環境学習や地域の学習等に役立つことを期待している。
--	--

2. 事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	4～6 月： 基本構成の立案、資料収集 7～9 月： 資料収集、構成案の作成 10～12 月： 構成案の決定、印刷用デジタルデータの作成 1～3 月： 印刷・出版、報告書作成	実地の見聞も含め実施した 原案作成と地図内容の精査、概説内容の選択と原稿作成 内容のバージョンアップ デジタルデータ作成 1 月、完成前にマップを利用し第四小学校 4 年生の授業で活用。 2 月 6 日、完成・納入 2 月 9 日、松本市長と戸部教育長出席の和光市環境づくり市民会議でお披露目、 3 月 12 日マップ完成を記念した観察会を実施。初めに和光の自然を講義し、その後特徴的な湧水群を観察し、公民館で感想と利用の仕方の検討を行った。 小学校では、3 年生で和光市の探検、環境を学習するため、この環境マップが好評、活用されている。

	当初	実績
事業成果 指標	・マップ（A2版両面カラー印刷）を3,000部発行し、学校を含む公共施設に配布する。 ・身近な自然環境の重要性の理解増進。 ・行政と市民の自然環境についての情報の共有。	・マップ（A2版両面カラー印刷）を3,000部発行し、学校を含む公共施設に配布した。 ・上記観察会や市民会議で配布。小学校で環境教育と地域学習で好評。 ・当事業は出版後の活用が重要。作成段階で市との情報共有に成果
コメント 【担当課】	学校へは校長会を通じ、PRを行った。一般へは広報やホームページを活用しPRを行い、各公共施設で入手できるようにした。その結果、現在約1,000部が配布済となっている。	

想定以上の事業成果があったか

団体	担当課
はい	はい

「はい」と回答した場合、どのような事業成果があったかをご記入ください。

団体	・年度内に行った観察会や、小学校での配布などで好評。 ・マップについて、2017年5月「文理シナジー学会」で発表。好評。 ・市と作成した3,000部の他に、独自の予算で3,000部印刷した。団体の事業の際にこれを配付している。
担当課	・まだ想定以上の効果はないが、配布の際の市民の反応や、環境マップそのものの使いやすさなどから、今後想定以上の効果が生まれると期待している。

3. 協働の結果

（1）プロセスの積み重ね

①事業進捗状況の報告を行っていましたか。

団体	担当課
はい	はい

 ②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。

はい	はい
----	----

（2）事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかをご記入ください。

（新しいつながりや連携の構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。）

団 体	【具体的内容】 ・小中学校での利用が進む予定。 ・和光の自然環境の特徴について、市外の人への情報提供の資料として有効性がある。 【つながりや連携の活用】 ・学校での環境教育、地域学習の継続利用。 ・公民館の夏休みの子供たちへの観察会として取り上げられ、夏休みの自由研究課題へと発展。 ・第三小地区社協主催「地域ささえあい交流会」でマップを紹介・配布。 ・以前賞を受賞した「コープみらい」のつながりで、7月にふじみ野市で活用予定。 ・地学団体研究会との共催で、マップ利用し和光市ハイキング実施予定。 ・5月に行われた「文理シナジー学会」で発表し配布
担 当 課	【具体的内容】 ・環境マップを協働で作成したことによる湧き水の会とのつながり。 【つながりや連携の活用】 ・環境マップを題材とした、湧き水の会の方を講師に迎えた講演会などの開催。

(3) 市民満足度の向上

	団体	担当課
事業の受益者の満足を得ることができましたか。	はい	はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、「いいえ」と答えた方は、その理由を下欄にご記入ください。

団 体	・白子地区の観察会や、ボランティア研修会で、マップ作成の必要性について賛同が得られた。前述の「地域ささえあい交流会」では多くの参加者からマップの感想が得られ、好評。 ・学校の先生方が、授業への活用が積極的に行われている。 ・本事業では、出版後の利用・普及に、市及び当会で注力する必要がある。
担 当 課	・自然環境マップを使った散策会を行い、アンケートを実施した。アンケートから、「とても分かりやすい」、「魅力的だ」、「活用したい」などの回答を得た。

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組みましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

■⑤役割分担について

団体	【当初】 ・マップ構成案、内容の作成 ・行政としての必要な内容などの提案 ・各々での今後のマップ利用の推進
	【実績】 ・当初と同じ
担当課	【当初】 ・データ提供、マップを活用した啓発事業の開催、市関係部署との調整及び広報と配布。
	【実績】 ・当初と同じ

役割分担で良かった点や改善点をご記入ください。

団体	・マップ作成の目的（和光市の環境理解の増進と散策に適するガイドマップ的用途）が明確になるのに時間を要した。 ・マップのデザイン向上のための予算不足。 ・マップを利用する市民向けの講座などの開設が必要。 ・緑化祭りでのマップの普及啓発活動は不調。
担当課	・マップの内容は、団体の長年の活動と知識があってこそその充実度であった。行政だけでは、ここまで充実した内容にはできなかった。また、マップの配布にあたり、団体と行政では配布ルートが異なるため、効果的に配布できたと思う。 ・当初提供した地図のデータが古いデータだったため、不具合があった。提供するデータに配慮すべきであった。（区画整理事業などが未反映）

■⑥情報公開について

団体	【PR事例】 ・「市民新報（和光・新座版）」に連載中の「身近な自然を楽しむ記」に、マップ作成についての内容を盛り込んだ。 ・白子小学校さくら祭り、熊野神社のつつじ祭り、地域ささえあい交流会、緑化祭り等で紹介配布。 【社会的認知度の向上】 ・2017年5月に文理シナジー学会発表 ・5月、第四小学校3年生が利用 ・6月、日曜地学ハイキングで利用予定 ・7月、コープみらい交流会で紹介予定 ・7月、中央公民館主催の「湧き水生き物観察会」で利用 ・7月、社協主催の「ボランティア体験」で利用 ・9月、お茶の水女子大地理学巡検で利用
担当課	・市ホームページ、広報わこうへの掲載。3月に記者クラブへの情報提供。3月に校長会での説明。環境マップを使ったチラシの公共施設への掲示。

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	【団体のメリット】 ・会の活動をもとにした出版物を作成することができた。今後、会の活動に有効に利用できる。
	【市のメリット】 ・市内の緑地、湧水、身近な自然について、その大切さの理解増進に役立つ。 ・行政の事業の特徴として、年度内にマップを完成させる必要があるが、年度開始後に掲載用の写真を撮り始めたのでは、スケジュール的に冬から春にかけての写真が掲載できない。当団体が保有する年間を通した写真を使用できたため、良いものができたと思っている。
	【市民のメリット】 ・和光市の特徴的な自然環境を知ることができる。 ・次世代への環境保全の必要性への理解に役立つ。

担当課	【市のメリット】 ・湧き水の会とのより深いつながりと、活用しやすい自然環境マップができた。
-----	--

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団体	・これまでの調査等をもとにして内容の充実したものとなった。 ・それを十分表現するためには予算不足。（会員の労力により解消した部分もある）
担当課	・散策会の参加者が思ったとおりには集まらなかったため、イベントの周知には改善が必要。

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、ご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているかをご記入ください。（特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。）

団体	【成果のアピール】 ・2014年度の「和光市湧水環境調査報告書」の内容を、簡潔な形で一般向けに配布できるものとして有効。 ・緑地地点が多く、それらの特徴を示すスペースが足りなく、配分に苦慮。 ・記事内容について「分かりやすく」、「簡単に」、「詳しく」、「文字表現を少なく」など、相反する要望が多く、それらの両立と、統一性の確保に苦慮。 ・多面的な内容を紙面に構成する上で、プロのデザイナーの技術が必要であるが、今事業の予算にはその費用を盛り込む余裕がなく、印刷用デジタル原稿の作成の負担がきつい。 ・製作者として、和光市の自然環境の全体像を把握することに役立っている。 ・単年度の「自然環境マップの作成」は、資料収集の点で無理があるが、湧き水の会で長年実施してきた事業で収集した資料が、今回のマップ作成上重要な資料となっている。 ・完成後の配布、利用に工夫がいる。有効に使ってこそ価値がある。 ・学校などへの配布で継続的な利用を進めるために、一過性でなく、増刷や改定等が行えるような計画、配慮必要となる。 ・市と市民の協働により、どちらかが単独で実施した場合には得られない成果が得られることを実感として伝えていければと考える。それぞれの得意なところで役割を果たしていくことが大切。 【事業の発展への貢献】
----	--

	・市内外の学校で、見学等のときに和光の紹介に有効。 ・市内小学校の３年生以上で行われている環境や地域を知る学習に役立てられる。 ・緑地や湧水地の情報が分かりやすく載っている「和光市自然環境マップ」は、学校での活用以外にも、都市部にある和光市にも、湧き水や緑地が沢山あることを市内外に知ってもらうために、様々工夫して、マップ活用を広めていくことが必要となる。
担当課	・市単独ではなし得ない充実した内容の成果品が得られたことは大変良かった。同内容のものを他の業務と平行して単年度で完成させることはできない。また、後半は団体との連絡・調整がとてもスムーズに行われ、進捗状況を常に把握できたことは良かった。 ・今回の事業で深まったつながりと成果品を活用し、市民への啓発を進めたい。